国際医療福祉大学 2015年4月30日発行 学校法人国際医療福祉大学 http://www.iuhw.ac.jp/ ☎0287-24-3000

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol.101 April 2015

平成26年度 学位記授与式

平成27年度 入学式

特集1 平成二六年度 学部・大学院 学位記授与式

三月一一日、大田原キャンパスにおいて「平成二六年度学位記授与式」が行われた。

校歌斉唱に続き、北島政樹学長から学部卒業生総代の藤田有香さん（言語聴覚学科）へ、天野隆弘大学院長から修了生総代の黄秋晨（コウ・シュウシン）さん（博士課程・理学療法学分野）へ、それぞれ学位記が手渡された。

●学位記を受け取る卒業生総代

さらに、各学科の学業最優秀者に「学長賞」が、博士課程・修士課程の研究業績優秀者に「大学院長賞」が授与された。

北島学長、天野大学院長の式辞に続き、来賓の津久井富雄・大田原市長、和田裕二・栃木県知事代理から祝辞をいただいた。さらに祝電披露では、学生たちがボランティアで継続的に訪れている、郡山市内の仮設住宅に住む富岡町の方々からのお祝いの言葉が読み上げられた。

●左は地元の大田原市の市旗

お祝いの言葉

卒業生の皆さん、富岡町民は、折れそうな心を皆さんの優しい笑顔に支えてもらいました。感謝しております。ご卒業を迎え、いよいよ自分の夢に向かっての新しい一歩を踏み出す時が来ましたね。自分の力を信じ、優しさと強い心を忘れず、胸を張って歩いていってください。ご卒業おめでとうございます。

●富岡町社会福祉協議会 おだがいさまセンター

東日本大震災の直後に入学した学生が卒業を迎えました。彼らの地道な支援活動が被災者の心に届いていたことがわかる祝福の言葉です。

藤田有香さんの「卒業生謝辞」、黄秋晨さんの「修了生謝辞」、米田歩さん（作業療法学科）の「卒業記念品贈呈」をもって閉式。その後はそれぞれ「学科別（大学院）学位記伝達式」に臨んだ。

●華やかな雰囲気に包まれた那須アスリーナ

平成二六年度 学部卒業生・大学院修了生概要

■学部卒業者 合計 1242名

保健医療学部 合計 573名
- 看護学科 128名
- 理学療法学科 94名
- 作業療法学科 94名
- 言語聴覚学科 91名
- 視機能療法学科 44名
- 放射線・情報科学科 122名

医療福祉学部 合計 176名
- 医療福祉・マネジメント学科 176名

薬学部 合計 104名
- 薬学科 104名

小田原保健医療学部 合計 149名
- 看護学科 52名
- 理学療法学科 56名
- 作業療法学科 41名

福岡看護学部 合計 94名
- 看護学科 94名

福岡保健医療学部 合計 146名
- 理学療法学科 76名
- 作業療法学科 37名
- 言語聴覚学科 33名

■大学院修了者 合計 203名

修士課程 合計 162名
- 医療福祉学研究科 合計 162名
- 保健医療学専攻 104名
- 医療福祉経営専攻 37名
- 臨床心理学専攻 21名

博士課程 合計 41名
- 医療福祉学研究科 40名
- 保健医療学専攻（論文博士5名を含む） 40名
- 薬学研究科 1名
- 医療・生命薬学専攻 1名

■卒業する留学生
- 保健医療学部 理学療法学科
- 易 晶晶（イ・ショウショウ）＝中国
- 医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科
- 車 侑林（チャ・ユリム）＝韓国

■修了する留学生

修士課程
- 高 海濱（コウ・カイヒン）＝中国
- 周 斌（シュウ・ヒン）＝中国
- 鄭 涛（テートウ）＝中国
- NWE NI THEIN（ヌェニ・テイン）＝ミャンマー
- 姜 紅（ジャン・コウ）＝中国

博士課程へ進学
- 夏 雲（カウン）＝中国
- SIM SOPHEAPNNIKA（シム・ソピアップニカー）＝カンボジア
- 張 璐（チョウ・ロ）＝中国
- 金 景子（キム・キョンジャ）＝韓国

博士課程へ進学
- 黄 秋晨（コウ・シュウシン）＝中国
- 朴 珍相（パク・ジンサン）＝韓国

【博士課程修了者（論文博士を含む）】
- **重久 加代子（看護学分野）**「がん看護におけるケアリング行為を基盤とするケアリングの構造」
- **磯山 あけみ（看護学分野）**「第2子を迎え入れる母親に対する準備教育プログラムの有効性の検討」
- **川上 和美（看護学分野）**「隔離予防策決定支援アプリケーション・プログラムの開発と医療関連感染防止および感染管理実践への効果の検討」
- **小笹 美子（看護学分野）**「こども虐待ボーダーライン事例に対する保健師の支援過程―母親の背景と育児支援者―」
- **佐藤 真由美（看護学分野）**「婦人科系がん術後患者の続発性（二次性）リンパ浮腫予防のためのセルフ・マネジメントを促す介入プログラム開発」
- **藤田 千春（看護学分野）**「小学校通常級に在籍する自閉症スペクトラム障害児をもつ母親へのソーシャルサポートの促進要因の検討」
- **山下 留理子（看護学分野）**「効果的な特定保健指導の展開及び保健指導技術の自信獲得に向けた方策の検討」
- **池田 拓郎（理学療法学分野）**「暗算と語想起による注意分散が視覚誘発脳磁界に及ぼす影響」
- **HUANG QIUCHEN（コウ シュウシン）（理学療法学分野）**「若年者における慢性腰痛症に関する研究―多裂筋横断面積比率を用いた評価とその応用―」
- **五味 雅大（理学療法学分野）**「簡易型上肢筋力測定法の開発に関する研究―ハンドヘルドダイナモメーターによる筋力測定法の再現性と妥当性―」
- **徳永 亮太（理学療法学分野）**「体性感覚刺激によるラット扁桃体中心核セロトニン放出変化とそのメカニズム」
- **中村 壮大（理学療法学分野）**「若年者と高齢者を対象とした肩関節外転角度の増加による肩峰骨頭間距離と肩甲骨の三次元動態変化の分析」
- **林 隆司（理学療法学分野）**「施設版FIMの作成・妥当性・信頼性・実用性の検討と生活活動と認知機能の関連」
- **岩上 さやか（作業療法学分野）**「地域在住高齢者の生活を構成する習慣・役割作業―老人クラブ会員を対象とした自由記載式調査より―」
- **小野 和美（作業療法学分野）**「身体障害医療領域における創作活動の治療的応用の促進要件―熟練作業療法士の語りに対する質的分析から―」
- **関森 英伸（作業療法学分野）**「発達障害児の医療機関A利用後の社会参加状況について―作業療法士が担当した発達障害児の追跡調査より―」
- **小畑 順一（作業療法学分野）**「脳性麻痺児におけるコンピューター用ポインティングデバイスの捜査効率に関する研究」
- **松谷 信也（作業療法学分野）**「創作的作業が健常成人の遂行機能に及ぼす影響―ストループテストとトレイル・メイキングテストを用いた検討―」
- **齋藤 健太郎（言語聴覚分野）**「新しい舌圧測定方法の考案と舌圧からみたヒトの嚥下機能の解明」
- **相馬 有里（言語聴覚分野）**「失語症者の談話における意味伝達能力の検討―失語症者と健常高齢者の比較から―」
- **重枝 利佳（福祉援助工学分野）**「人工股関節全置換術後症例の骨盤前傾歩行と股関節屈曲筋群の遠心性収縮能力の関係」
- **田中 惣治（福祉援助工学分野）**「片麻痺者の歩行パターンの違いによる歩行時の筋電図・運動力学的特徴の分析―麻痺側立脚期の膝関節の動きによる歩行パターン分類―」
- **上條 史子（福祉支援工学分野）**「動作分析から考える片麻痺者の体幹機能」
- **髙嶋 美和（リハビリテーション学分野）**「健常人の手指タッピング課題による大脳皮質賦活の相違―電気生理学的解析―」
- **佐藤 吉海（放射線・情報科学分野）**「頭部MRI画像の正常白質部平均信号値による規格化を用いた白質病変定量評価の検討」
- **川口 功（医療福祉経営学分野）**「閉経後骨粗鬆症患者におけるパゼドキシフェンの費用効用分析」
- **朴 珍相（パク ジンサン）（医療福祉経営学分野）**「白内障手術における包括払い制度とクリニカルパスを用いた導入効果」
- **滝澤 雅美（診療情報管理・分析学分野）**「胃悪性腫瘍の手術要因に着目した診断群分類の精緻化に関する研究―包括出来高差の観点から―」
- **楠元 寛之（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）**「高齢入院患者における排泄自立と現場（職員）での意識について」
- **南 幸子（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）**「居宅介護支援事門員が要介護高齢者の在宅生活を不可能と判断する要因についての研究」
- **山本 君子（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）**「介護における『その人らしさ』の研究」
- **渡辺 羊子（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）**「地域保健で働く保健師の活動の現状と今後の課題―首都圏の行政保健師の場合―」
- **増原 真砂子（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）**「特別養護老人ホームにおける介護過程の展開プロセスに関する研究―個別ケアの支援を中心に―」
- **藤原（八鳥）瑠美（医療福祉ジャーナリズム分野）**「ケアの概念としてのオムソーリ（Omsorg）を考察する短時間のホームルプで独居できるスウェーデンの認知症の人たち」
- **小澤 千咲（医療福祉心理学分野）**「女性性産業従事者における職業に対する態度の形成および変容プロセス―M-GTAおよび心理検査を用いて―」
- **釜屋 洋子（看護学分野）**「口腔ケアの設定時間に関する研究」
- **小嶋 裕（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）**「地域在住高齢者に対する主観的幸福感と抑うつの評価を用いてのQOLに関する研究」
- **西山 裕（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）**「都道府県の地域福祉施策における共生型事業推進施策の意義」
- **韓 憲受（ハン ホンス）（理学療法学分野）**「健常成人における股関節内旋外旋の関節可動域パターン」
- **井上 太（生殖補助医療胚培養分野）**「Efficiency of a Closed Vitrification System with Oocytes and Blastocysts」
- **東 美恵（医療・生命薬学専攻）**「日本における費用対効果評価の政策利用と評価方法に関する示唆」

（論文タイトルは変更される場合があります）

IUHW International University of Health and Welfare vol.101 April 2015

CONTENTS

●晴れの日の朝、思い出の正門で

特集1 平成26年度 学部・大学院 学位記授与式

2-3 大田原キャンパス学位記授与式 学部卒業生・大学院修了生概要
4 北島政樹学長式辞／天野隆弘大学院長式辞 津久井富雄大田原市長祝辞
5-7 大学院長賞受賞者／卒業生総代／学長賞受賞者

特集2 平成27年度 学部・大学院 入学式

8 大田原キャンパス 入学式 学部・大学院新入生概要
9 北島政樹学長式辞／天野隆弘大学院長式辞 津久井富雄大田原市長祝辞

キャンパスレポート

10-13 福岡キャンパス／大川キャンパス／小田原キャンパス／大学院／塩谷看護専門学校

14 **新任のごあいさつ**

桃井 眞里子　国際医療福祉大学病院 病院長
福井 康之　国際医療福祉大学塩谷病院 病院長
佐藤 哲夫　国際医療福祉大学熱海病院 病院長
赤居 正美　国際医療福祉大学大学院 副大学院長
藤田 郁代　国際医療福祉大学大学院 副大学院長
坪倉 繁美　保健医療学部 看護学科長
久保 晃　保健医療学部 理学療法学科長
渡邊 敏子　薬学部 薬学科長
黒澤 和生　小田原保健医療学部 副学部長・理学療法学科長
藤本 幹　小田原保健医療学部 作業療法学科長
永沢 善三　福岡保健医療学部 医学検査学科長

15 満留昭久先生合同葬

15 **留学生が見た 母国と日本の保健福祉事情**
第2回　ヌエ・ニ・テインさん

16 **施設インフォメーション**
国際医療福祉大学塩谷病院／山王病院新館・山王バースセンター／国際医療福祉大学病院／国際医療福祉大学三田病院／国際医療福祉大学熱海病院

17 **冬季海外保健福祉事情**
オーストラリア／シンガポール／タイ

18 同窓会通信
19 生涯学習のご案内
20 学生投稿ページ

特集① 式辞・祝辞

学長式辞（抜粋）

北島 政樹

四年前の本日三月一一日、東日本大震災が発生し、多くのかけがえのない生命と財産が失われました。この会場も被害を受け、直後に予定していたその年の学位記授与式は中止せざるをえませんでした。あれから四年。本日こうして、みなさんのご卒業をお祝いできることを大変うれしく思います。また、卒業生のみなさんはもとより、今日まで支援されてこられたご両親、ご家族のみなさまにおかれましても、お慶びのこととお祝い申し上げます。

本学は、『病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現』をめざすことを建学の精神に掲げ、一九九五年、我が国初の医療福祉の総合大学として開学しました。昨今、就職氷河期と言われるなか、本学への求人数は卒業生ひとりあたり九七人、就職率はほぼ一〇〇%となっております。これはみなさんの先輩が医療福祉の現場で高い評価を受けている証であります。みなさんはこれを今後それぞれの現場で大きな励みにしていただきたいと願っております。

医療福祉のグローバル化が加速する今日、卒業生のみなさんには、医療福祉の先導者となるべく、自ら考え、自ら行動することにより、幅広い教養と視野を備えた豊かな人間性を養い、さらには、本学がめざしている「チーム医療・チームケア」の一員として、コミュニケーション能力の向上に努めていただきたいと願っています。

みなさんは本日、学び舎の地、ここ大田原を巣立っていかれますが、これから、学生生活よりもはるかに長い道のりを歩むことになります。どうか、夢と希望と勇気をもって、本学の卒業生であるという誇りとともに、実り多い、悔いのない人生を歩まれることを祈念しております。

大学院長式辞（抜粋）

天野 隆弘

本日卒業または修了されるみなさんに、「Medical Professionalism」という言葉を紹介します。

この言葉を理解するために、ギリシャ神殿を思い浮かべてください。屋根の上に「Medical Professionalism」が載り、それを四本の柱が支え、さらにこれを支える三段の大きな土台があります。

土台の一番下は、いうまでもなく、みなさんが今日まで学んできた知識や技術であり、二段目は、患者様や家族の方、さらにはほかの専門職とのコミュニケーションです。三段目の土台は、今日、さまざまな場面で社会的な問題になっている医療倫理を理解して適切な行動をとること、さらに、医療に関する法律を守ることであります。

この土台に四本の柱が立っています。一つ目は「excellence」で、これは卓越性、すなわち、現在みなさんが身につけている知識でありますが、日々進歩する医療の世界にあっては、絶えず磨き続けていかなければなりません。二つ目は「humanism」で、これは患者様や家族の方に対する思いやり、人としての道であります。三つ目は「accountability」で、説明責任であります。これは患者様や家族の方によくわかるように説明して了解を得ることはもちろん、医療の透明性を保つ義務も含まれております。四つ目は「patient first」で、常に患者様や家族の方、その関係者を第一に考えた行動がとれるということであります。

アメリカで一九九〇年代に唱えられたこの「Medical Professionalism」は今や、世界中の誰もがこれを意識して医療と向き合う指針になっております。どれか一つが欠けても、立派な医療人とはいえません。このことを胸に、今後、みなさんが医療人としての道を歩んでいかれることを念じております。

大田原市長祝辞（抜粋）

津久井 富雄様

人生で最も多感な青春の時を過ごした大田原での生活はいかがでしたか。大田原の地で充実した学業生活を送られたみなさんが、今まさに医療福祉の第一線に立とうとされていることを大変うれしく、また、誇りと感じております。今日のように「福祉のまち・大田原」が実現しましたのは、貴大学の先生方や学生のみなさんのご支援があったからこそであります。みなさんが市内各地で行ってきた数々の交流、すなわち、ほほえみセンターでのお年寄りとの交流、子どもたちとの交流、絵本の点訳、障害児・障害者との交流、手話活動、献血の呼びかけ、大田原マラソン大会での選手のお世話、与一まつりへの参加、河川などの清掃奉仕、災害時の被災者支援のお手伝いなど、これらのふれあいをとおして、みなさんはかけがえのない財産を得られたことと思いますが、それは、この地域にとっても貴重な財産として残るものであります。

この大田原の地で培った知識や教養、経験を糧に、誇りをもって活躍されることを願っております。

二〇一四年度 大学院長賞受賞者

大学院長賞

黄 秋晨（コウ シュウシン）さん
中国出身
博士課程・理学療法学分野
修了生総代

この度、国際医療福祉大学大学院長賞を頂戴し、大変光栄に感じます。

私は本学の修士課程を修了してから、理学療法士として、中国リハビリテーション研究センターでリハビリ教育、臨床治療やリハビリ国際協力などの仕事に従事しました。三年間の勤務のなかで、自分の能力不足を感じるようになり、臨床現場で得た問題意識を基に、実践で役立つ研究を行い、治療のエビデンスを創造したいという想いをもって、博士課程に入学しました。

私の研究内容は慢性腰痛症に関するものでしたが、思うように研究が進まず、徹夜をしたこともありました。そんななかでも、仲間たちと一緒に頑張って、倫理性と論理性を培い、無事に修了できました。

大学院では、医療福祉分野の国際性を感じることもできました。日本と中国に限らず、自分の研究結果を世界に紹介するため、七つの英語の論文を執筆し、英文雑誌に掲載されています。

最後に、皆さんに中国の諺を贈ります。「书山有路勤为径，学海无涯苦作舟」。これは、「本の山に道があれば勤勉に歩むしかなく、果てのない学びの海では苦労して船を漕ぐしかない」という意味です。

今後も、多くの仲間とともに、医療福祉の国際協力を成し遂げたく、精進していきます。

（IUHW一〇〇号・二三ページ「留学生が見た母国と日本の保健福祉事情」もご覧ください）

ヌエ・ニ・テインさん
ミャンマー出身
修士課程・理学療法学分野

私は本学の理学療法学科を卒業してからの一〇年間を、ミャンマーの国立リハビリテーション病院で理学療法士として勤務しました。日々の臨床業務の中で、根拠に基づく治療がなぜ必要なのか、研究とはそもそも何なのか、と考えるようになり、本学大学院に入学しました。

この二年間の学びは、大変多くのものを私にもたらしました。研究を通じて得られる新しい考えや技術の発見、また、根拠に基づく研究の大切さを学び、さらに、この大学院長賞をいただいたことで、私は自分をプロの理学療法士であると自信を持って言えるようになりました。

今後は、ミャンマーの理学療法学分野の水準を日本のレベルまで引き上げるべく、責任を持って日々の業務に励んでいきたいと思います。

私はプロの理学療法士であるために、「四つのC」が重要であると考えます。すなわち、

- Creativity and innovation
  —創造性と新たな採り入れ
- Critical thinking and problem solving
  —クリティカルな思考と問題解決
- Communication and Collaboration
  —コミュニケーションと協働

後輩の皆さんにはぜひ、この「四つのC」を実践しつつ、研究に邁進してほしいと願います。

（一五ページ「留学生が見た母国と日本の保健福祉事情」もご覧ください）

秋葉繭三さん
修士課程・臨床心理学専攻

臨床心理学を学び始めてからの日々は、ただただ目の前のことに一所懸命で、必死に周りに追いつこうとしていました。

大学時代には、将来は臨床心理士として、「子どもたちのそばで、子どもたちのために働きたい」という思いで、ひたむきに文献を読みあさりました。しかし、学べば学ぶほど、その思いを実現するには、今の自分は知識も経験も未熟だと、途方に暮れたことを覚えています。それでも、「子どもたちのために働きたい」という気持ちを持ち続けられたからこそ、自分の限界を知り、協力してくださる方々を敬い、相補的に関わろうとする姿勢を学ぶことができました。そして、その姿勢を真摯に受けとめて、一つひとつの目標を達成してきたことで、一つのものを多角的にみる姿勢や、相手の価値観を受け入れようとする心構えが少しずつ身についてきたように感じています。

今後は、これから出会う人たちを温かく包み込めるような臨床心理士をめざして邁進していきます。

卒業生総代

大田原キャンパス
言語聴覚学科　藤田有香

この度は総代という貴重な経験をさせていただき、感謝いたします。

長いようで短かった四年間の中で特に印象に残っていることは、四年次に行ったグループでの国家試験対策です。同じ空間で励まし合いながら勉強したり、問題を出し合ったりしたことは今でも鮮明に思い出します。約一年かけて国家試験の勉強を行いましたが、一緒にがんばる仲間がいたからこそ乗り越えることができたと思います。人は一人で生きていくことはなかなか難しく、助け合っていくことが大切だと再認識しました。

今後も「共に生きる社会」に貢献できるよう心がけ、さまざまな人と助け合いながら医療人としての道を一歩一歩進んでいきたいと思います。

小田原キャンパス
作業療法学科　井水美結

入学時、作業療法とは手工芸をとおしたリハビリというイメージでした。ところが、学ぶうちに、対象が非常に広く、患者さんの人生と向き合う職種であることを知り、その難しさに悩むこともありました。

しかし、できることが増えて笑顔になっていく患者さんと関わり、作業療法士になりたいという思いが強くなりました。

これも熱心にご指導くださった先生方、優しく見守り支えてくれた家族や友人のおかげと心から感謝しています。

今、ずっと夢見ていた作業療法士としてのスタートラインに立ち、希望と不安でいっぱいです。

作業療法の楽しさを知ったときの気持ちを忘れず、患者さん一人ひとりの心に寄り添うことのできる作業療法士になりたいと思います。

福岡キャンパス・大川キャンパス
作業療法学科　白石翼

入学以来、明確な目標を掴みきれないまま作業療法学科での生活を送っていましたが、四年次の長期実習でそれが一変することになりました。二回の長期実習での患者さんやご指導いただいたセラピストとの関わりは、作業療法士になりたいという気持ちを強くしました。自分自身の甘さに気づき、臨床に向かう姿勢・覚悟を再認識させられました。価値観すら変わってしまったかもしれません。

多くの先生方、友人に支えられ成長することができました。作業療法士は、退院後の患者さんの生活を支えることが大事な仕事の一つだと思います。学ぶことの多い職業であり、成長し続けるなかで、大事なものを忘れないよう、初心を大切に日々研鑽を重ねていきます。

思い出のひとこま

●家族に見守られて（福岡会場）

●学生生活最後の校歌斉唱（福岡会場）

●晴れやかな表情の卒業生（小田原キャンパス）

●教員との最後の記念写真（大田原キャンパス）

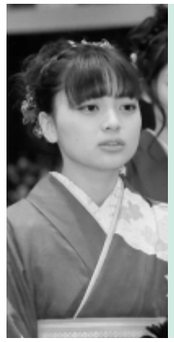
●後輩からの祝福（大田原キャンパス）

各学科選抜

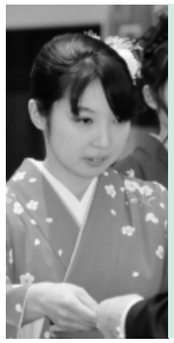
学長賞

保健医療学部

■看護学科　津久井沙耶香



■理学療法学科　佐藤ゆりえ



■作業療法学科　米田歩

卒業生総代

■言語聴覚学科　藤田有香

■視機能療法学科　久岡亜沙未

■放射線・情報科学科　船越萌香

医療福祉学部

■医療福祉・マネジメント学科　菅野歩美

薬学部

■薬学科　手塚千裕

小田原保健医療学部

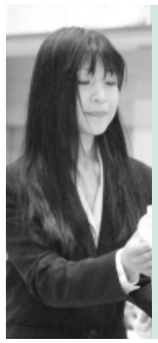
■看護学科　高橋真耶

■理学療法学科　高橋茉也

卒業生総代

■作業療法学科　井水美結

福岡看護学部



■看護学科　佐々木尚子

福岡保健医療学部

■理学療法学科　木庭知美

卒業生総代

■作業療法学科　白石翼

■言語聴覚学科　二宮菜帆

特集2

平成二七年度 学部入学式並びに大学院入学式

四月二日、大田原キャンパスにおいて「平成二七年度　学部入学式並びに大学院入学式」が行われた。

校歌『未来（あす）への扉』の斉唱に続き、北島政樹学長、天野隆弘大学院長が式辞を述べた。続いて、来賓を代表して、津久井富雄・大田原市長、山本圭子・栃木県知事代理・保健福祉部保健医療監から祝辞をいただいた。

これを受けて、学部新入生を代表して間中理紗さん（視機能療法学科）、大学院新入生を代表して米田歩さん（医療福祉学研究科修士課程）がそれぞれ「新入生誓いの言葉」を述べた。

●誓いの言葉を述べる米田歩さん

●誓いの言葉を述べる間中理紗さん

最後に、北島学長から檀上の教員が一人ひとり紹介されて式は滞りなく終了。その後はそれぞれ、「来賓懇親会並びに大学院祝賀会」、「学科別懇談会」、「大学院オリエンテーション」に臨んだ。

平成二七年度年度 学部新入生・大学院新入生概要

■学部　合計　**1539名**

- 保健医療学部　合計　**601名**
  - 看護学科　130名
  - 理学療法学科　103名
  - 作業療法学科　108名
  - 言語聴覚学科　91名
  - 視機能療法学科　50名
  - 放射線・情報科学科　119名
- 医療福祉学部　合計　**167名**
  - 医療福祉・マネジメント学科　167名
- 薬学部　合計　**197名**
  - 薬学科　197名
- 小田原保健医療学部　合計　**185名**
  - 看護学科　84名
  - 理学療法学科　51名
  - 作業療法学科　50名
- 福岡保健医療学部　合計　**98名**
  - 看護学科　98名
- 福岡看護学部　合計　**291名**
  - 理学療法学科　103名
  - 作業療法学科　45名
  - 言語聴覚学科　48名
  - 医学検査学科　95名

■大学院　合計　**281名**

- 修士課程　合計　**207名**
  - 医療福祉学研究科　206名
  - 保健医療学専攻　133名
  - 医療福祉経営専攻　48名
  - 臨床心理学専攻　25名
  - 薬科学研究科　1名
  - 生命薬科学専攻　1名
- 博士課程　合計　**74名**
  - 医療福祉学研究科　72名
  - 保健医療学専攻　72名
  - 薬学研究科　2名
  - 医療・生命薬学専攻　2名

その他のキャンパス・グループ施設

■入学式

- 四月三日　小田原キャンパス
- 四月四日　福岡キャンパス・大川キャンパス
- 四月六日　塩谷看護専門学校
- 四月五日　大学院　東京青山キャンパス（歓迎会）
- 四月三日　柳川リハビリテーション学院
- 四月六日　福岡国際医療福祉学院
- 四月七日　大川看護福祉専門学校

■辞令交付式

- 四月一日　栃木地区
- 四月二日　東京・千葉・小田原・熱海地区
- 四月四日　大川・福岡地区

特集2　式辞・祝辞

学長式辞（抜粋）　北島 政樹

ご入学おめでとうございます。

新入生のみなさんには、まず、本学の歴史と建学の精神を知っていただきたいと思います。本学の歴史は、今から約一〇〇年前の一九一〇年、現理事長の祖父、高木吉彦先生が福岡県大川市に高木眼科医院を開設したことに遡ります。

当時は、ドイツの細菌学者のコッホ博士や、クリミア戦争で医療改革を実行したナイチンゲールなどが活躍した時代であります。こうした歴史を背景として、一九九五年、医療福祉専門職の地位向上をめざし、『病気や障害を持つ人も健常な人も、お互いを認め合い、尊重し合う「共に生きる社会」の実現』を建学の精神として本学が開学しました。

今後、多くのことを学んでいくみなさんへ、このことばを送りたいと思います。

「一身独立して一国独立す」

すなわち、医療福祉のグローバル化が加速する激動の時代にあって、今こそ自ら考え、責任をもって行動できる「独立して生きる力」と、他人の心の痛みを感じ、利害得失を超えて新しい協力関係を作り出すことのできる「協力して生きる力」を兼ね備えた人間になること。これこそ、みなさんが将来、医療福祉の先導者となるべき道であると考えていただきたいと思います。

また、この大学がみなさんの母校になるわけでありますが、母校とは、心からこの学校で学んで良かったと思える学び舎であり、楽しみがあふれ、輝きに満ちた場所でなければなりません。そのためには、学業はもとより、サークル活動やボランティア活動にも積極的に参加され、多くの人たちと交流を図る中で、学業以外に真に打ち込めるものを発見することが必要です。

本日、ここ大田原にて、学生生活の新しい一歩を踏み出したみなさんの今後のご活躍とご健闘を祈念いたします。

大学院長式辞（抜粋）　天野 隆弘

ご入学おめでとうございます。

今後みなさんが、医療福祉系の大学、あるいは大学院で学ばれるにあたって、「学習」に対する考え方をご紹介したいと思います。一九五六年に、アメリカの教育学者、ベンジャミン・ブルームが中心になってまとめた『Taxonomy of Educational Objectives』という書物の中で、脳の機能からみて、教育の目標は三つあると述べられています。

第一は、コグニティブ・ドメイン（認知領域）の学習であります。すなわち、知識でありますが、知識は単に覚えるだけでなく、必要な時にこれを取り出し、解釈を加えて問題を解決するというところまでいって初めて意味を持つものであります。この問題解決力をどのように養うかは、なお難しい問題でありますが、今後みなさんが体験されるチュートリアル教育はその一例であると思います。

第二は、アフェクティブ・ドメイン（感情領域）の学習であります。すなわち、価値や習性であり、物事に対する好奇心、関心、さらには自分自身の習慣、人生観、信念であります。やがてこれが膨らんだものが人格になります。これから人格形成にとって最も重要な時期を迎えるみなさんは、知識に走らず、将来、患者様やその家族の方に信頼されるような人格形成を図っていただきたいと思います。

第三は、サイコモーター・ドメイン（精神運動領域）の学習であります。すなわち、技術であり、医療福祉職にとってはどの分野にあっても、知識だけでなく、手技によって必要なことができることが重要であり、これは演習などによって身につけていくものであります。

医療福祉職として社会で活躍していくには、この三つのバランスが大事でありますので、今後の勉強のなかで常にこれを意識して、有意義な学園生活を送っていただきたいと思います。

大田原市長祝辞（抜粋）　津久井 富雄様

ご入学、誠におめでとうございます。

本日ここに、国際医療福祉大学の入学生とそのご家族をお迎えできましたことを、大田原市民を代表いたしまして、心から歓迎を申し上げます。

本日入学されたみなさんは、保健・医療・福祉の分野でプロフェッショナルをめざし、国際医療福祉大学の伝統と歴史に輝かしい一ページを書き加えるべく、それぞれの専攻において問題意識を持ち、新しい課題を設定し、未知の領域にアプローチするため、自ら学び、自ら考える力を身につける努力をすることになります。同じく本日入学された仲間とともに、人生のかけがえのない青春の時をこの大田原の地で過ごしながら、多くの経験を積み、それらが一生の糧となって、輝かしい未来を手にされますことを心より願っております。

みなさんも先輩同様、大田原市の将来像の実現に向け、思いやりのある、住んでよかったと思われる地域づくりにご協力を賜りますようお願いいたしますとともに、私たちもみなさんとともに努力してまいりたいと思います。

大川キャンパス・福岡キャンパス 平成二六年度 合同学位記授与式

三月九日、福岡市百道浜にある福岡国際医療学部・福岡看護学部・大学院の合同学位記授与式が行われた。あいにくの雨にもかかわらず、会場に到着した卒業生・修了生はみな晴れやかな笑顔だった。

在校生とともに校歌「未来(あす)への扉」を斉唱したのち、学部生二四〇名(看護学科九四名、理学療法学科七六名、作業療法学科三七名、言語聴覚学科三三名)、大学院修了生二六名(博士課程四名、修士課程二二名)を代表して、北島政樹学長から学部卒業生総代の白石翼さん(作業療法学科)へ、天野隆弘大学院長から博士課程総代の松谷信也さん、修士課程総代の新原沙耶さんに、それぞれ学位記が手渡された。

さらに、各学科の学業最優秀者である木庭知美さん(理学療法学科)、白石翼さん、二宮菜帆さん(言語聴覚学科)、佐々木尚子さん(看護学科)に学長賞が授与されたほか、高木邦格理事長から大石明日翔さん(理学療法学科)、石井亜美さん(作業療法学科)、井上理穂さん(言語聴覚学科)に「全国リハビリテーション学校協会優秀賞」が、北島学長から峰松恵里さん(看護学科)に「日本私立看護系大学協会会長賞」が授与された。

●学部生240名、大学院修了生26名

続いて、北島学長と斉藤ひさ子福岡看護学部長の式辞があり、「国際化を推進する本学の国内外での展開の中で、本学で学んだ専門的な知識と技術を活用し、医療福祉の先駆者、『チーム医療・チームケア』の要となるよう、さらなる努力を」との言葉に、みな決意を新たにしたようだ。天野大学院長、高木理事長の式辞に続いては、内藤正俊・福岡大学副学長、藏内勇夫・福岡県議会議員、津村洋一郎・大川商工会議所会頭ほか多数のご来賓を代表して、内藤副学長、藏内議員より祝辞をいただいた。それを受けて、二宮菜帆さんの「卒業生謝辞」、吉田大記さんの「修了生謝辞」、佐々木尚子さんによる「卒業記念品贈呈」をもって閉式となった。

●凛として式辞を聞く卒業生

●学部卒業生代表の白石翼さん

(九州地区広報室　帆足リエ)

福岡看護学部 学位記伝達式

合同学位記授与式に続き、福岡国際医療福祉学院体育館で福岡看護学部学位記伝達式を行った。卒業生は、名前を呼ばれると緊張した面持ちでステージへ。しかし、「よくがんばりましたね」というねぎらいの言葉とともに、斉藤ひさ子学部長から一人ひとりに学位記が授与されると、ほっとした表情で卒業の喜びをかみしめていた。

続いて、斉藤学部長からはなむけの言葉が贈られた後は、全員で記念撮影。笑顔で互いの卒業を称え、それぞれの道で新たなスタートを切るべく巣立っていった。

●全員で記念撮影

●斉藤学部長

(九州地区広報室　帆足リエ)

福岡保健医療学部 学位記伝達式

福岡保健医療学部の学位記伝達式は、授与式と同じ福岡国際医療福祉学院の教室で学科別に執り行われた。学科長から一人ひとりに学位記が手渡されると、卒業生だけでなく、その姿を見守るご家族も感慨ひとしおの様子であった。

式終了後は、友人との会話に花を咲かせたり、お世話になった教員や応援してくれた家族といっしょに記念撮影をしたりする卒業生の姿が見受けられ、会場はいつまでもにぎやかな雰囲気に包まれた。

●理学療法学科

●作業療法学科

●言語聴覚学科

(入試学生募集課　髙比良　仙)

第24回 福岡キャンパスレポート

BLS(初期救急救命処置)講習会開催

二月二七日、福岡看護学部で、一・二年生を対象にBLS講習会が開催された。この講習会は、平成二六年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業「地域における救急蘇生トレーニングのためのトレーナー機器等の整備」に基づいて、地域貢献活動の一環として行われた。

講師の井上敬測医師(福岡山王病院循環器内科)から、「BLSの知識・技術の修得は、傷病者の救命効果と治療経過への影響から重要である」と説明を受け、BLS導入DVDを視聴したあと、学生六一名は二人一組となって心肺蘇生の実技トレーニングを開始した。受講経験のある学生は、メトロノームのリズムに合わせてテンポよく胸骨圧迫を行うことができていた。一方、初めて受講した学生は、緊張した面持ちで戸惑いながらも、徐々に正しい姿勢を保つことができるようになり、胸骨圧迫部位を特定し、圧迫する力加減などを体得していったようである。普段目にすることはあっても、AEDを手にするのは初めてという学生も多かったが、経験者も初心者も最終的には、音声によるガイダンスに合わせてスムーズに操作することができるようになった。

約一時間の講習会に参加した学生は、BLSの正しい知識と技術を修得し、当初の目的を達成することができた。しかし、この講習会の本来の目的は、単にBLSの知識と技術の修得をめざすものではない。看護学科の一・二年生といえば医療者としては初学者であるが、医療者をめざす学生には、たとえ初学者であっても、緊急の事態に遭遇したときに、ひるむことなく行動できる人であってほしい。目の前でけがや急病で苦しんでいる人に対し、戸惑うことなく自分の手を差し延べ、迅速、かつ適切にBLSを実施し、命を救うことに貢献できてこそ、本当の意味で今回の講習会の目的が達成できたといえるのではないだろうか。

●講習に取り組む姿勢は真剣そのもの

(福岡看護学部　助教　石川美智)

第38回 大川キャンパスレポート

医学検査学科 キャリア支援講演会を開催

三月二八日、臨床検査センター、医療機器メーカー、病院それぞれで勤務する現役の臨床検査技師を招いて医学検査学科二年生対象の就職イベント「キャリア支援講演会」が行われた。

目的は、「医学検査学科の学生が将来に対して主体的に向き合う機会を得る」というもの。外部から講師を招き、それぞれの職域に関わる講演を聞くことにより、臨床検査技師が関わる現実を理解するとともに、進路選択や進路に対する意識の向上につなげることが狙いだ。

当日は、二年生一一六名全員がスーツを着用し、緊張した面持ちでそれぞれの講師の話に耳を傾けていた。各講師の講演後には、活発な質疑応答が行われた。

●外部講師を招いての開催

これまでは、「就職活動はまだまだ先のこと」と思っている学生も多かったようであるが、今回の講演会が、「病院以外で働く臨床検査技師のことも詳しく知ることができ、視野が広がった」、「自分自身の仕事に対する意識の低さ、認識の甘さを痛感した」など、臨床検査技師として働くということを真剣に考えるよいきっかけとなったようだ。

今後、医学検査学科では、三年生を対象とした就職セミナーを月一回のペースで開催していく予定である。

●真剣に話を聞く学生たち

今回のキャリア支援講演会のテーマ
- 「医療機器メーカーで活躍する臨床検査技師」
- 「検査センターで活躍する臨床検査技師」
- 「病院で活躍する臨床検査技師～これからの臨床検査技師に期待すること～」

(キャリア支援センター　望月秀樹)

第34回 小田原 キャンパスレポート

平成二六年度 学位記授与式

三月一三日、小田原キャンパスでは、小田原保健医療学部と大学院の学位記授与式を行った。井上義行・参議院議員、大野速雄・小田原市副市長、小森哲夫・国立病院機構箱根病院長をはじめ、多くのご来賓、保護者、教職員に見守られ、学部生一四九名（看護学科五二名、理学療法学科五六名、作業療法学科四一名）と、小田原・熱海キャンパスに所属する大学院生一六名（博士課程三名、修士課程一三名）、博士学位取得者五名に学位記が授与された。

北島政樹学長、天野隆弘大学院長より学位記を受け取った総代は井水美結さん（作業療法学科）、岩上さやかさん（博士課程）、渡部瑞穂さん（修士課程）。続いて、学長賞が高橋真耶さん（看護学科）、高橋茉也さん（理学療法学科）、井水美結さんに授与された。北島学長より「卒業生のみなさんは、本学で学んだ専門的な知識と技術を活用し、医療福祉の先導者となるべく自ら考え、自ら行動し、幅広い教養と広い視野を備えた豊かな人間性を養っていただきたい」と式辞が述べられた。そして、学部生を代表して高橋真耶さん、大学院生を代表して中村壮大さん（博士課程）より謝辞、高橋茉也さんより、卒業記念品の贈呈が行われた。

午後は、学科長（大学院は大学院長）より一人ひとりに学位記が手渡される学位記伝達式を行った。教職員一同、卒業生の今後の活躍を祈念している。

（総務課　高久晃）

謝恩会

学位記授与式・学位記伝達式の終了後、ヒルトン小田原リゾート&スパのヒルトンアリーナに会場を移し、小田原保健医療学部謝恩会が開催され、卒業生一四九名が四年間お世話になった教員五三名を招待した。

冒頭、北島政樹学長、丸山仁司副学長、各学科長への花束贈呈に続き、お祝いの言葉をいただいた。今年度末をもって退任される菅原洋子作業療法学科長の乾杯を合図に謝恩会がスタート。

途中、四年間の思い出と先生方への感謝のメッセージが込められた動画がスクリーンに映し出された。国家試験・就職活動・実習のなか、限られた時間で作成した卒業生の力作だ。全学科の動画が終了し、会場が再び明るくなると、卒業生のみならず先生方の中にも目に涙を浮かべている姿が見られた。

昨年の九月から実行委員を中心に準備を進めてきた。そのメンバーに感謝とねぎらいの声をかける卒業生の姿や、テーブルを囲んで先生方と思い出話に花を咲かせる姿が多く見られ、例年以上に会場はアットホームな雰囲気に包まれた。

最後に、実行委員長の髙橋翔一さん（理学療法学科卒業生）が、先生方と、四年間苦楽をともにした学友への感謝の言葉を述べた。

これから、それぞれが選んだ道へと歩みを進める卒業生たち。その歩みを止めることなく、目標に向かって勇往邁進してほしい。

（学務課　下田岳史）

●北島学長を囲んで記念撮影

●関東大会に出場したフットサル部メンバー

●お世話になった先生と乾杯!!

●実行委員の皆さん、お疲れ様でした!!

●閉会の辞を述べる髙橋さん

第8回 大学院 キャンパスレポート

学位記授与式・伝達式

三月九日の福岡・大川キャンパスを皮切りに、一一日・大田原キャンパス、一三日・小田原キャンパス、一四日・東京青山キャンパスにて、平成二六年度大学院学位記授与式・学位記伝達式を行った（東京青山は学位記伝達式のみ）。

大田原キャンパスで行った学位記授与式では、修了生を代表して本年度の大学院長賞を受賞した博士課程理学療法学分野の黄秋晨さんが登壇、天野隆弘大学院長より学位記を授与された。会場を移して行われた学位記伝達式では、約六〇名の修了生が参加し、一人ひとりに学位記が手渡された。

三月一四日に東京青山キャンパスにて行った学位記伝達式では、百名近くの修了生が参加し、天野大学院長により学位記が授与された。参加した修了生たちは、緊張と喜びの入り混じった面持ちで、学位記を受け取った。

伝達式の後の歓送会では、佐藤禎一学事顧問より、修了生たちへ学び続けることへの励ましのメッセージが贈られたほか、修士課程で大学院長賞を受賞したヌエ・ニ・テインさん、秋葉繭三さんのスピーチが行われ、参加者から盛大な拍手が送られた。また、今年度をもって退任する松浦清先生（医療経営管理分野）、田中繁先生（福祉支援工学分野）よりご挨拶をいただいた。

別れと出会いの季節を迎え、各キャンパスの大学院事務局では新年度に向けて準備を進めている。平成二七年度も一人でも多くの学生を笑顔で送り出せるよう、事務局一同力を尽くしていきたい。

（東京青山キャンパス　大学院事務局）

●東京青山キャンパスでの学位記伝達式

●歓送会で挨拶する佐藤学事顧問

●大学院長賞受賞者のテインさん

第16回 塩谷看護専門学校 キャンパスレポート

第一〇四回 看護師国家試験の日の朝

わが校は毎年、国家試験会場へ向かう学生のために、忙しいなか、卒業生や就職先の看護師たちが見送りをするのが恒例になっている。例年は数名だが、今年はなんと一二名の卒業生や看護師たちが思い思いの差し入れを持ってやってきた。中には、他県に就職しているものの、わざわざこの日のために駆けつけてくれた卒業生もいた。毎年、集まってくれた人たちと学生で円陣を組み、一人ひとり国家試験への思いを叫んでいくのだが、今年はいつもより大きな円陣を組んでの熱のこもった出陣となった。

この日は看護師国家試験と東京マラソンが重なり、都心の渋滞が予想されていたが、何とか渋滞に巻き込まれることもなく会場入りができた。会場の入口で、緊張が最高潮に達する学生に教員が「がんばって行っておいで！」と喝を入れ、学生が会場に入っていったことを確認。ほっとしたのも束の間、

「先生！　会場間違っています！」

と学生たちが笑いながら戻ってきた。その顔はさっきまでの緊張感が嘘のようにリラックスしていた。担任と副担任で、「あれで緊張がほぐれ、みんなリラックスして試験を受けられるね」と安心して会場をあとにした。

振り返れば、「不安です」、「どうしよう」が口癖の七回生。クラスのまとまりに欠け、メンタルが弱く、打たれ弱い学生たちを学校長や担任をはじめ、全教員で叱咤激励した。そのうち学生の口癖は、コマーシャルで聞いたことのある、「私たちはやればできる子」に変わり、クラスの団結力も高まった。そして看護師になりたいという共通の目標に向かって突き進んでいった。

毎年この時期になると、学生だけでなく教員も不安でいっぱいの日々を過ごす。どんなに辛いことも乗り越えるだけの力を三年間で培うことができるのは、教職員だけの力ではなく、講師陣や実習施設の方々、卒業生など多くの人たちからの励ましや支えがあるからだと感謝している。この感謝の気持ちを忘れることなく、次へと繋げていくことを願う。

（教務部　出井美恵子）

●いつもより大きな円陣となった出陣式

新任のごあいさつ

この度、当院病院長を拝命いたしました。「地域医療から高度専門医療まで」、「予防医学から急性・慢性疾患まで」、「誕生から高齢まで」、地域の健康を総合的に守る医療機関として、その使命を果たすべく、職員一同思いを新たにしています。

この広大な地域の健康を持続可能な形で守るには、若い人材がここで活躍してくれることが不可欠です。このためにも、多様な医療職の人材育成にも貢献し続けることで、その使命を果たしたいと思います。

医療は進歩すればするほど常にリスクを伴います。その中でも、患者さんとご家族から常に全幅の信頼を寄せていただける医療機関であり続けることが、職員一同の願いです。

国際医療福祉大学病院長
桃井 眞里子 ももい まりこ

東京大学医学部卒。自治医科大学医学部長、同大附属病院副病院長等を歴任。日本学術会議会員、日本専門医機構理事。本学副学長。

国際医療福祉大学塩谷病院 病院長
福井 康之 ふくい やすゆき

慶應義塾大学卒、医学博士。国際医療福祉大学三田病院脊椎脊髄センター長、前同院副院長。日本脊椎脊髄病学会認定指導医。

一九八八年に東京専売病院に赴任し、二〇〇五年に同病院が国際医療福祉大学三田病院として継承されてから一〇年間、同院の副院長兼脊椎脊髄センター長を務めた後、この度、当院病院長に着任いたしました。

当院では地域医療を担う基幹病院として、地元の患者様から信頼される医療をご提供してまいります。医療はチームワークですので、各部署間の連携を密にし、迅速で正確な診断と的確な治療のご提供に全力投球で尽力したいと考えております。同時に、国際医療福祉大学グループ内での医師の交流をはじめとし、病院間の連携も、より一層深めることに努めてまいります。

皆様方のご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学熱海病院 病院長
佐藤 哲夫 さとう てつお

東京慈恵会医科大学卒、医学博士。元東京慈恵会医科大学附属病院助教授・呼吸器内科診療部長、前国際医療福祉大学三田病院呼吸器センター長・副院長。

当院は二〇〇二年に国立熱海病院を継承いたしました。現在は救急医療、先端の高度医療、慢性期医療、リハビリテーションなどをご提供し、人口約四万人を擁する熱海市の中核病院としての役割を担っております。

また当院は、多岐にわたる医療福祉専門職を養成する国際医療福祉大学の附属病院という強みを生かし、「チーム医療・チームケア」をモットーとして、安心できる医療をご提供しております。その同大学が開学二〇周年を迎えたこの時に、院長として赴任できましたことは大変光栄であり、責任の重さに身が引き締まる思いです。

地域の皆様にさらなる安心と信頼を得られるよう、優秀なスタッフとともに努力する所存です。

国際医療福祉大学大学院 副大学院長
赤居 正美 あかい まさみ

東京大学卒、医学博士。元東京大学医学部附属病院リハビリテーション部副部長、前国立障害者リハビリテーションセンター病院長。

二月一日付で副大学院長を拝命いたしました。専門であるリハビリテーション学分野における教育のほか、倫理講習や審査、留学生指導をはじめとする国際交流活動、論文の質向上のための研究指導体制の強化に取り組んでいます。

また、「医療福祉ロボット研究センター」の立ち上げにも参画し、本大学院の特徴である「医療福祉の専門職」としてのキャリアアップをめざす院生の一助になればと考え、多忙な日々を過ごしております。

国際医療福祉大学大学院 副大学院長
藤田 郁代 ふじた いくよ

広島大学卒、東京大学医学博士。(社)日本言語聴覚士協会前会長、日本高次脳機能障害学会理事、日本神経心理学会名誉会員。

開学時より学部において言語聴覚士の教育に携わり、四年前から大学院教育に取り組んできました。この間、本大学院の発展は目覚ましく、現在は多彩な分野で約六六〇名の院生が学んでいます。

本大学院は、学部卒業生のキャリアアップを支え、医療福祉の未来図が描けるリーダーを育成する場であると思います。その期待に応えるべく、教育の充実と拡大に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

保健医療学部 看護学科長
坪倉 繁美 つぼくら しげみ

兵庫県立厚生専門学院卒、法政大学社会科学研究科修了、厚生労働省看護課課長補佐などを歴任。

臨床看護、訪問看護、保健師活動の実践とともに、兵庫県、厚生労働省、看護協会などで看護行政・看護政策に取り組み、看護師・保健師・看護教師教育も行ってまいりました。

こうした経験を生かし、次世代の教育に力を注ぎたいと思います。

保健医療学部 理学療法学科長
久保 晃 くぼ あきら

社会医学技術学院卒。青山学院大学卒。筑波大学大学院修士課程教育研究科修了。医学博士。

開学二年目から八年間お世話になり、五年間の臨床を経て、平成二一年に戻ってまいりました。二一期生を迎える今年度より、学科長を拝命いたしました。引き続き、人間味に溢れる優れた理学療法士の育成に尽力いたします。

薬学部 薬学科長
渡邊 敏子 わたなべ としこ

千葉大学卒、同大学院修了。博士（薬学）。東邦大学助手、千葉大学大学院助教授。薬剤師。

薬学部開設の二〇〇五年以来、基礎薬学の科目（化学系）を担当し、ピカピカの一年生からすっかり大人びた六年生まで、成長の過程を見守ってきました。

さらに多くの薬剤師を輩出すべく、教育・研究に精進いたします。

新任のごあいさつ

小田原保健医療学部 副学部長・理学療法学科長
黒澤 和生 くろさわ かずお

国立療養所近畿中央病院附属リハ学院卒。杏林大学大学院修了。保健学博士。日本理学療法士協会理事。

一九九六年に大田原キャンパスに入職、二〇〇六年には小田原保健医療学部の開設に関わりました。大川、大田原を経て、再び小田原の勤務となりました。二一世紀をリードする優秀なスペシャリストを養成したいと考えています。

小田原保健医療学部 作業療法学科長
藤本 幹 ふじもと みき

愛媛十全医療学院卒。保健医療学博士。帝京平成大学教授、新潟リハビリテーション大学専攻長を経て現職。

小田原医療福祉学部作業療法学科長は、一九九六年に就任いたしました。前任の菅原洋子先生からのよき伝統を引き継ぎ、これまでの教育経験を生かしながら、さらに本学作業療法学科が発展するよう、全力で努めさせていただきます。

福岡保健医療学部 医学検査学科長
永沢 善三 ながさわ ぜんぞう

銀杏学園短期大学卒。専門は臨床微生物学、感染制御学。日本臨床微生物学会理事・評議員。医学博士。

二〇一三年に開設された医学検査学科は、一期生が二年生となり、九月から臨地実習が始まる大切な時期を迎えます。今まで経験してきた専門的な知識・技能をできるかぎり伝えながら、国際的に活躍できる臨床検査技師の養成に努めます。

訃報

生前のご厚誼に深謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

本学前副学長の満留昭久先生が二月六日に福岡山王病院にてご逝去されました。七五歳。

満留先生は九州大学医学部をご卒業。福岡大学では、医学部教授（小児科）、医学部長等を歴任されました。二〇〇六年に本学教授に着任され、翌年より福岡リハビリテーション学部長、〇九年より副学長として、九州地区における本学の基礎を築かれました。

●満留昭久前副学長

一二年には、てんかん患者さんに対する診療と福利に対する長年の貢献が評価され、「日本てんかん学会功労賞」が贈られました。また、「子どもの村福岡」の活動を精力的に続けてこられた実績に対して、同団体が平成二四年度「内閣府子ども若者育成・子育て支援功労賞」に選ばれ、理事長として総理大臣より表彰を受けました。

本学のみならず、小児医療や社会活動に多大な功績を残された満留先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

（九州地区広報室）

留学生が見た 母国と日本の保健福祉事情 第2回

●ヌエ・ニ・テインさん　ミャンマー出身
理学療法士／修士課程2年

私は、治療的なアプローチによって障害を持つ人を支援できることに魅力を感じて一九九六年、国立ヤンゴン医療技術大学に入学して理学療法を学びました。当時、ミャンマーでは理学療法はあまり知られておらず、教員はわずか四人、学生も一学年二〇人ほどでした。

卒業後、ヤンゴン国立リハビリテーション病院で働いていましたが、その後半の五年間にあたる二〇〇八年七月から二〇一三年三月まで、JICAによる「リハビリテーション強化プロジェクト」が実施されました。ヤンゴン国立リハビリテーション病院のリハビリテーションサービスの質の向上を目的とした技術協力のために、ミャンマーの保健省、日本の国立障害者リハビリテーションセンター、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会とともに専門家の派遣を行ったのが国際医療福祉大学でした。当時、ミャンマーでは、感染症や地雷等による外傷、栄養失調、医療サービス・医薬品の不足等によって、人口の一〇％（WHO推定値）にあたる約五〇〇万人が障害を持っているといわれ、私はこのプロジェクトで日本の進んだ理学療法を勉強しました。

また、二〇一〇年一一月から一二月、プロジェクトの一環で日本での研修に参加しました。実際に日本の理学療法を見て、日本で修士の勉強をしたいという思いが強くなりました。このとき、訪れた鎌倉の大仏様にお願いしたことを思い出します。

そんな中、アジア各国における医療福祉専門職の指導的立場となる人材を育成するため、国際医療福祉大学から学費全額とその他の経費が提供される奨学金制度を利用して、大学院修士課程に入学することができました。私はこの制度を利用するミャンマーからの最初の留学生になりました。

この二年間で、私は理学療法そのものの研究もさることながら、理学療法の教育について勉強しました。今後、ミャンマーで理学療法をさらに普及させていくためには、何よりもその教育が大切であると思うからです。これからミャンマーで理学療法を志す若い人たちには、それにふさわしい教職員、施設、テキスト、教育システムなどが必要です。私は母国に帰ってから、こうした理学療法教育の環境整備に貢献できる道に進んで、これまで学んできたことを生かしていきたいと思っています。

施設インフォメーション

●国際医療福祉大学塩谷病院 ●山王病院新館・山王バースセンター ●国際医療福祉大学病院 ●国際医療福祉大学三田病院 ●国際医療福祉大学熱海病院

附属病院 国際医療福祉大学塩谷病院

第六回 運営協議会を開催

二月一七日、第六回運営協議会を開催した。会員一二名の来賓に加え、当院側からは、北島政樹学長、早川正道病院長等一三名が参加した。

北島学長と早川病院長の挨拶に続き、栃木県保健福祉部の森沢隆課長が当院の医師確保と地域貢献への謝辞を述べられた。その後、医師のキャリアアップや災害医療等をテーマに意見交換を行った。

（総務人事課　木村裕幸）

●早川病院長の挨拶で協議会が幕を開いた

臨床医学研究センター

山王病院新館・山王バースセンターをオープン

三月二三日、当院新館内に新たに二九床の産科施設山王バースセンターを開院した。オープニングセレモニーとして、同院の北川道弘院長、深田幸仁産婦人科部長、山王病院堤治院長によるテープカットを執り行った。

これに先立ち二月七日に新館見学会を開催。七〇〇名を超える来場者があった。今後とも患者様のご期待にお応えするべく、職員一同気持ちを新たにした。

（総務課　松橋悦子）

●山王バースセンターのテープカットの様子

附属病院 国際医療福祉大学病院

第六回『キッズセミナー』を開催

三月二一日、当院で第六回目の「キッズセミナー」（外科手術体験セミナー）を開催。栃木県と福島県の中学生六七名から応募があり、作文審査の結果、過去最多の三七名が参加した。

午前の部は、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチS_{i}」の操作体験。最先端の医療機器に触れる緊張感にあふれていた。「将来、医師になりたい。最新の機器に触れて、ますます医学に興味を持てた」という感想が聞かれた。

午後の部は、内視鏡外科手術シミュレーターの操作、超音波メスや自動縫合器・吻合器による模擬手術体験、今回から導入した術前カンファレンスなど、七種類の体験型プログラムを体験した。

修了証書を手にした参加者は皆、満足そうだった。将来、医療福祉の道に進んでくれることを期待したい。

（総務企画課　小室秀明）

●手術着に身を包み、機器を操作する参加者

附属病院 国際医療福祉大学三田病院

診療体制が新しくなりました

当院では、一月に脳卒中・血管内治療センターと移植外科が、三月には救急部が新設された。

脳卒中・血管内治療センターは、前帝京大学医学部脳神経外科准教授の上野俊昭医師をセンター長に迎え、内藤雄一郎医師、西山恭平医師とともに開設。マイクロカテーテルを使用し、脳血管障害に対し、開頭することなく血管内部から治療する最先端医療技術を提供する。また、予防医学センター長として日本医科大学から迎えた桂研一郎医師は、日本脳ドック学会総会の事務局長の経験があり、脳ドックの普及に尽力している。

移植外科は、東京女子医科大学腎臓外科から加藤容二郎医師を迎えて開設した。加藤医師は、腎移植を中心とした臓器移植を専門としている。

三月には救急部を開設。前旗の台脳神経外科病院副院長の桑原和英医師を迎え、東京都指定二次救急医療機関としての体制を強化した。

（総務企画課　川井直子）

●後列右から時計回りに加藤医師、上野医師、桂医師、桑原医師

附属病院 国際医療福祉大学熱海病院

手指衛生キャンペーンを開催

地域密着型病院である当院では、感染症発症の多い毎年一月と二月に感染予防対策の一環として、「手指衛生キャンペーン」を実施している。院内感染対策チーム（ICT）が主催し、感染予防対策の基本となる手指衛生の技術と意識の向上を目的に、その重要性を多くの方に知っていただいている。

総合受付隣りに「患者様手洗い体験コーナー」を設け、看護師が効果的な手洗い方法を指導して、「洗い残し」のない望ましい手洗い方法などを伝えている。同時に職員にも手洗い技術チェックを行い、院内感染予防の意識づけを行っている。

キャンペーン中は、院内二一部署による「手指衛生ポスターコンクール」も開催。待ち合いにポスターを掲示し、患者様・職員の投票により優秀ポスターを選出した。

最優秀作品は次年度の手指衛生キャンペーンのポスターとして掲示し、現場のモチベーションアップを図っている。今後も継続して本イベントを開催し、地域の感染予防対策に効果を上げていきたい。

（総務課　堀内希望）

●手指衛生キャンペーンの手洗い講習チーム

冬季海外保健福祉事情

オーストラリア

学生の成長の速さに驚く

医療福祉・マネジメント学科
准教授　林和美

一月二五日から二週間、小田原キャンパス七名、大田原キャンパス一一名の学生がゴールドコーストを訪ねた。本学の提携先であるTAFEのご協力で、語学教育、ホームステイによる国際交流に加え、現地の保健医療や福祉の現状を学んだ。初めての海外という学生も多く、出国手続きや入国審査などで苦労していたが、最後には、ジョークも交え堂々と会話している成長ぶりには驚かされた。また、キャンパスも学科も違う中でのチームビルディングは、仲間を信じ、役割分担と責任ある業務遂行が、信頼を築く礎になることを実感できる機会でもあった。

この海外経験を踏まえ、グローバルな視点を持ち、国際貢献ができるような専門職になっていくものと確信している。

本物の英語に触れながら現場を体験

医療福祉・マネジメント学科二年　上武貴大

初日はホストファミリーとの親睦を深めることに主眼が置かれ、パーティに誘われたり、海に出かけたりと、それぞれの家庭が私たちを受け入れてくれた。

TAFEでの授業では本場の英語に触れ、英語自体を身近なものとして認識できた。オーストラリアの医療制度について学び、現場で使われている医療器具に触れる貴重な経験もした。私立病院での見学では、公立病院と私立病院の差、病室の快適さ、服でそのスタッフの仕事内容がわかるなど、日本とは違う医療の現場を自分の目で確かめた。

●老人ホームで、英語で「世界に一つだけの花」を歌う

シンガポール

小国ならではの医療福祉制度に学ぶ

医療福祉・マネジメント学科
准教授　今野広紀

二月二八日から一〇日間、大田原キャンパスの学生一九名が参加した。シンガポールの医療福祉制度は、欧州型自立支援体制であるが、人口五四〇万人の小国のため、病気や障害を持つ国民への介入は早期かつ濃密であった。また、国籍、人種、宗教、所得水準が多様なため、ソーシャルワーカーや作業療法士が主導して、生活に寄り添う形でケアが行き届いている。Changi General Hospital、St.Andrew's Community Hospital、Institute of Mental Health などの病院、アジア女性厚生協会運営の障害者ケア施設、SPD（重症心身障害者ケア施設）の見学は学生にとって貴重な経験となった。

Nanyang Polytechnicの学生の歓迎を受け、国境を越え、同じ職種をめざす同志の交流の価値を見出す機会となった。

ETERNAL FRIENDSHIP

薬学科二年　西明柚香

一般病院の入院病棟は付加的なサービスの違いにより、A、B1、B2、Cクラスに分かれている。Cクラスでは入院費の六五～八〇%を政府が補助するため、多くがCクラスを利用するという。病室は清潔で、病院特有の臭いもしなかった。外国は日本に比べて医療費が高いと思っていたが、シンガポールの医療制度パフォーマンス（水準）はアジア一位である。

ナンヤンポリテクニックの学生との交流のなかで、英語での意思疎通を上達させたいと思った。国境を越えた医療専門職をめざす者同士の交流は、「価値の共有」でもあり、かけがえのない経験となった。

●作業療法士Lim Hua Beng先生による装具作成演習

タイ

国境を越えた連帯の経験を成長の糧に

保健医療学部　看護学科　准教授　藤田京子

一月二五日から二週間、大田原キャンパスと小田原キャンパスの看護学科の学生九名が参加した。地域の中核病院や先進医療を行う病院、高齢者施設やコミュニティ・ホスピタル、エイズ・サイトなどの視察をとおし、タイの文化・風土特有の健康問題やその支援体制、現状と課題の一端を知ることができた。

また、クリスチャン大学を拠点とし、看護学部の英語による授業に参加したり、お互いの国の文化を紹介し諸活動をともにしたりすることで親睦を深めることができ、国境を越えて保健医療従事者としての連帯感を培う貴重な機会となった。

本研修での学びが、学生の今後の専門職としての自覚と成長にどのように役立つのかを知るのが楽しみである。

●視察に訪れたエイズ・サイト

タイの方々の優しさに触れて

保健医療学部　看護学科二年　中山真梨子

一番強く感じたことは、タイの人々の優しさである。日本人は言葉が通じないと相手と距離をとってしまいがちだが、タイの学生は英語が全く話せない私たちに積極的に話しかけてくれた。拙い英語に一生懸命耳を傾け、理解しようとしてくれた。その優しさに応えたいという気持ちからか、こんなにも強く英語を話せるようになりたいと思ったのは初めてだった。目が合うと微笑み、手を振る人たち、「微笑みの国タイ」といわれる理由がわかる。相手を思いやる心を持った、人情味あふれる素敵な国である。

同窓会通信 Vol.7

IUHW Alumni Association Report

昨年度、大勢の同窓生が集まり、好評のうちに幕を閉じた小田原保健医療学部同窓会の開催報告、および本会の平成二七年度事業計画を掲載します。

小田原キャンパス第一回同窓会開催

二月一五日、小田原キャンパスにて、記念すべき第一回同窓会が開催されました。幹事代表の多田英生さん（理学療法学科一期生）が総合幹事となり、昨年七月から準備を進めてきました。

本学大学院・医療福祉ジャーナリズム分野責任者の大熊由紀子教授の記念講演「日本の医療の困った忘れ物～小田原で学んだみなさまの出番です～」では、北欧の医療福祉の様子を交えながら、どんなに障害や病気が重くても、年をとっても、死が間近に迫っていても、人として保障される権利と尊重される「自己決定と尊厳」について具体的に語り、福祉と医療、現場と政策をつなぐことの大切さを訴えました。

学科ごとの分科会では、看護学科は「それぞれの臨床の現場から…世代を超えて」、理学療法学科は「今の自分と昔の自分」、作業療法学科は元小田原保健医療学部准教授であり現広島国際大学の山路博文教授による「職場でのコーピングスキル」の講演など、学科色が際立つものになりました。

●大熊教授の特別講演

その後、会場を小田原報徳会館に移しての懇親会では、部活動をともにした先輩・後輩、お世話になった先生方、大学祭やスポーツ大会でともに汗を流した同期の仲間たちと、時間が経つのを惜しみながら思い出を語り合いました。医療職をめざす大学生としてともに過ごした仲間と、今度は同じ医療専門職の仲間としての繋がりを深めることのできる非常に有意義な一日でした。

懇親会の最後には、幹事に、「お疲れ様でした！」の大きな拍手が送られました。幹事は、多忙の中、初めての同窓会の計画を立て、やり遂げた達成感、無事に終わった安堵感と満足感で胸がいっぱいの様子でした。

記念講演会一〇三名、分科会一一〇名、懇親会一八三名が参加し、平成二五年度までの卒業生総数七五一名の小田原キャンパスとしては、高い参加率で盛会のうちに幕を閉じました。「国際医療福祉大学　小田原保健医療学部同窓生」としての繋がりを、これからも大切に広げてくれることを期待します。

●同窓会幹事の皆さん、お疲れ様でした!

●理学療法学科分科会は懐かしい実習室で

平成二七年度同窓会事業について

今年度計画している同窓会事業の一部をご紹介します。昨年度に引き続き、キャンパス所在地をベースにした三つの支部会主催イベントを開催する予定です。お誘いあわせのうえ、ご参加ください。

関東支部会

第二回関東支部会イベント、および各学科分科会イベントを国際医療福祉大学学会・学術大会と同日で開催します。詳細については、別途郵送物または同窓会ホームページ等でご案内します。学術大会プログラムにご参加いただくことも可能です。ぜひ、卒後研修も兼ねてご参加ください。

日時：8月29日（土）午後
場所：大田原キャンパス

九州支部会

九州支部では、同窓生・在校生・教職員に、マスコットキャラクターを募集していましたが、多数の応募の中から、福岡保健医療学部・作業療法学科四年の内立洸一さんの作品が選ばれ、「アイ・ユーくん」が誕生しました。三月九日に行われた謝恩会が初仕事になりました。

また、福岡保健医療学部（旧福岡リハビリテーション学部）が今年で開設一〇周年となります。同窓会でも記念イベントを一〇月に開催する予定で準備を進めています。

●アイ・ユーくんのお披露目

中国支部会

前年度に続き、中国に帰国した留学生による同窓会を九月に北京市内で開催する予定です。

同窓会幹事会議メンバーの増員

同窓会事業について活発な意見が交わせるよう、同窓会「マロニエ会」（母体）の代表幹事メンバーを増員しました。

各学科一名の代表者に加え、副代表を招集し、二倍の人員で同窓会事業の方向性を検討してまいります。

同窓会メールマガジン配信について

月に一度のペースで、同窓会・大学主催イベントの案内や大学学生会（学友会）からの情報を同窓会メールマガジンとして配信しています。卒業後もぜひ大学Gmailをご利用ください。

※大学Gmailの利用方法は、同窓会ホームページでご案内しています。

★住所等が変更になった同窓生へ（お願い）

今後も同窓会からの各種ご案内をお送りさせていただくために、住所・勤務先・氏名等の変更の際には、お手数ですが同窓会事務局までご一報ください。

同窓会ホームページ、電話、FAX、メールでも受け付けています。また、スマートフォンをご利用の方は、左記のQRコードもご利用いただけます。（お使いの携帯機種によりサーバーに接続できない場合があります。送信ができない場合は、お手数ですがPCまたはFAXでお送りください）

同窓会「マロニエ会」事務局
栃木県大田原市北金丸2600-1
国際医療福祉大学学生課内
TEL：0287-24-3055　FAX：0287-24-3140
Mail：office.maronie@iuhw.ac.jp
http://maronie.iuhw.ac.jp/

生涯学習のご案内

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学習の場を提供しています。

IUHW Graduate School Information

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみなさん、大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

「働きながら大学院で学びたい」社会人が学びやすい3つの特長

①キャンパス　大田原、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に6つのキャンパスを開設しています。

②カリキュラム　多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間に行っています。

③同時双方向遠隔授業　複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

TOPICS 2016年度「医療福祉教育・管理分野」開設

保健医療に関する教育機関、医療機関、福祉施設における教育者、管理職を養成する分野です。保健医療に関する教員をめざす人、医療福祉施設の管理職をめざす人、また医療福祉における教育者・管理者でスキルアップをめざす人などが対象です。

詳細は大学院ホームページをご覧ください。
http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/

2016年度 入学生募集

学内推薦入試・入学金免除・奨学金制度あり
（本学卒業生及び卒業見込者対象）

国際医療福祉大学大学院の課程編成

医療福祉学研究科

修士課程

保健医療学専攻
- 看護学分野
- ナースプラクティショナー養成分野
- 助産学分野
- 理学療法学分野
- 作業療法学分野
- 言語聴覚分野
- 視機能療法学分野
- 福祉支援工学分野
- リハビリテーション学分野
- 放射線・情報科学分野
- 生殖補助医療胚培養分野
- 医療福祉教育・管理分野

医療福祉経営専攻
- 医療経営管理分野
- 診療情報アナリスト養成分野
- 医療福祉国際協力学分野
- 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
- 医療福祉学分野
- 医療福祉ジャーナリズム分野

臨床心理学専攻

博士課程

保健医療学専攻
- 看護学分野
- 助産学分野
- 理学療法学分野
- 作業療法学分野
- 言語聴覚分野
- 視機能療法学分野
- 福祉支援工学分野
- リハビリテーション学分野
- 放射線・情報科学分野
- 生殖補助医療胚培養分野
- 医療福祉経営学分野
- 診療情報管理・分析学分野
- 医療福祉国際協力学分野
- 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
- 医療福祉学分野
- 医療福祉ジャーナリズム分野
- 医療福祉心理学分野

薬学研究科
博士課程（4年制）
医療・生命薬学専攻

薬科学研究科
修士課程
生命薬科学専攻
- 生命薬学分野
- 医療薬学分野

大学院入試に関するお問い合せは入試事務室まで（TEL：0287-24-3200）

学べる！役立つ！究める！動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ

医療福祉eチャンネル http://www.ch774.com　好評配信中

主な配信番組

●理学療法分野
呼吸リハビリテーションの有用性・汎用性

●作業療法分野
第51回作業療法全国研修会（岩手）

●言語聴覚分野
摂食・嚥下リハビリテーションの実際

●介護・福祉分野
自立支援型ケアマネジメント・自立支援介護

●医療・福祉・経営実務
病院再生セミナー、介護の経営と人材育成

●厚生労働省情報
障害保健福祉関係主管課長会議(3月6日開催)※無料配信
全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議(3月2日・3日開催)※無料配信

●乃木坂スクール
脳と心のサイエンス

●情報BOX
納得!カラダ事典
（健康に役立つ情報を専門医がわかりやすくお教えします）

お問い合わせは　フリーダイヤル　0120-870-774　医療福祉eチャンネル お客さま係（月曜～金曜 9:00～17:00）
Eメール info@iryoufukushi.com　〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

学生向け動画配信サイト　「国際医療福祉大学VODライブラリー」http://www.ch774.com/student.php

主な配信番組
●大学授業・副教材
死生学～死を通して考える、国際医療福祉論、世界遺産と国際文化政策、医学／医療史、健康科学理論、リスクマネジメント論、メディカルマナー入門、雑談と傾聴～話す力と訊く力、音声障害学、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動、産業看護の基礎、視能訓練学、等

広報誌 IUHW 101 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1　☎0287-24-3000
〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25　☎0465-21-6500
〔福岡キャンパス〕
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4　☎092-407-0805
〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1　☎0944-89-2000
編集：大田原キャンパス広報室　☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン
写真：米山真人

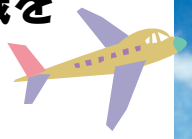
医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。
国際医療福祉大学
http://www.iuhw.ac.jp/

©国際医療福祉大学2015　Printed in Japan　禁無断転載・複写

成田キャンパスの開設準備と小田原キャンパスの施設整備が進んでいます！

成田キャンパス

成田から世界へ飛び立つ医療福祉の専門職を養成します。



2016年4月、
千葉県成田市の京成本線「公津の杜」駅前に、
成田看護学部／看護学科、成田保健医療学部／
理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科・
医学検査学科の開設を計画しています。
（設置認可申請中）

❶ 海外経験豊富な教授陣を揃え、国際性に富んだカリキュラムを展開
❷ 9か国・約20施設におよぶ海外提携機関での海外研修（必修）
❸ 4つの附属病院や豊富な関連施設など、充実の実習施設

学部棟完成予想図

看護学科	理学療法学科	作業療法学科	言語聴覚学科	医学検査学科
入学定員 100名	入学定員 80名	入学定員 40名	入学定員 40名	入学定員 80名
病院や地域での実習はもちろん、途上国や先進国、空港をはじめとした実習等、成田でしか実現できない新しいカリキュラムを整えています。	海外で活躍できる理学療法士の養成は急務であり、グローバル化と臨床実践能力の向上をめざし、国際性の高い科目を多く設定しています。	文化適応力やコミュニケーション力を育み国際的活動に必要な専門性と日本の地域社会で必要な専門性の両方を修得することをめざします。	日本言語聴覚士協会の会長を務める深浦順一教授（大川キャンパス　福岡保健医療学部）をはじめ、各領域の第一人者の教員が揃っています。	医学検査学科としては千葉県で初めての学科開設になります。国際的に貢献できる臨床検査技師になるためのカリキュラムを整えています。

小田原キャンパス

旧小田原城内高等学校跡地に新施設の整備が進んでいます。

昨年7月、現キャンパス近くの
旧小田原城内高等学校跡地にグラウンドと
クラブハウスが完成しました。
引き続き、今年の6月に体育館が完成予定です。
さらに、来年4月の使用開始をめざして、
新校舎（城内校舎）の建設を予定しております。
このように、小田原キャンパスでは、
現校舎（本校舎）に加えて学習環境の整備が
急ピッチで進んでいます。

●本校舎

城内校舎完成予想図

小田原保健医療学部

看護学科	理学療法学科	作業療法学科
今年度より、入学定員を50名から**80名**へ増員しました。	入学定員 40名	入学定員 40名